

2011.3.11 を経験した釜石市民より、未来のあなたへ

10のメッセージ

わたしたちのまち釜石は、三陸の雄大な自然に抱かれた美しいまちです。
しかし、あの東日本大震災により、多くの命が奪われ、わたしたちの暮らしは一変しました。
あの悲しみを二度と繰り返すことがないよう、
未来の命を守るため私たちから10のメッセージを伝えます。

- | | |
|--|---|
| 1 大きな揺れや長い揺れを感じたら | 6 家族を信じて
みなが「命でんでんこ」で
逃げてください
自分の命は自分で守るしかないのです |
| 2 たとえ過去の津波が
いま、あなたのいる
場所まで来たことがなくとも
あなたは逃げてください | 7 地震がおきたら
家族が別々の場所にいても
探したり
戻ってはいけません |
| 3 100回逃げて、100回来なくとも
101回目も必ず
逃げてください | 8 もし、大切な人の命を守れなくても
決して自分を
責めないでください |
| 4 あなたが率先して逃げれば
多くの人の避難を促し
命を救うことになるでしょう | 9 やがて平穀な日常が戻ったとき
あなたはきっと気づくでしょう
自分は決して一人ではないことを
多くの人に支えられて生きていることを |
| 5 相手は自然。
いつ、どこまでどれほど
大きな津波が来るか
だれにもわからないのです | 10 未来のだれかが同じ思いをしないように
いま、あなたにできること。
「避難を続けること」
「備えること」
「語り継ぐこと」 |



釜石市

〒 026-8686 岩手県釜石市只越町三丁目 9-13
TEL 0193-22-2111 (代)

2011.3.11 東日本大震災

未来の命を守るために

釜石からのメッセージ

岩手県釜石市



釜石東中、鵜住居小の子どもたちは、一度避難した場所からこの高台に避難した。振り返ると津波が町を飲み込んでいく様子が見えた。「ここまで津波が来る！」全員で更なる高台を目指した。

釜石の出来事

大きな被害があった鵜住居地区。

大きな犠牲を出した「釜石市鵜住居地区防災センター」

—なぜ多くの生命が失われたのか—

東日本大震災において、被害が大きかったのが、市北部の沿岸部に位置する「釜石市鵜住居地区防災センター」です。震災1年前に開所したこの施設に、震災当日、多くの住民が避難し、推定160人を超す方が犠牲となりました。

同センターは、岩手県が示した浸水予測図では浸水しない想定でしたが、明治の津波で浸水したと思わ

れることから、津波災害の避難場所ではありませんでした。しかし、施設の名称を「防災センター」としたことや、震災前に地域でこの施設を利用した津波避難訓練が行われていたことなどから、一部の住民の間に、津波災害の避難場所であるとの思い込みが生じ、震災当日、多くの住民が避難してきました。

津波は、防災センターの2階天井付近まで達し、ホールなどに避難していた人々は、黒い海水の中に沈んでいました。津波が引いた後には、重なるように遺体が横たわり、69名が収容されました。救出された生存者は34名でした。

私達は、このことを決して忘れてはなりません。二度とこの悲劇を繰り返さないよう、後世に語り継ぎます。



釜石市鵜住居地区防災センター（写真中央）



東日本大震災 釜石市鵜住居地区防災センター犠牲者追悼式

この経験を忘ることはできない。

子どもたちの命を救った「防災教育」

—津波から命を守る避難三原則—

震災時、放課後で教室を離れていた子どももいましたが、釜石東中学生が率先避難者となり、鵜住居小学生と地域の大人たちなど総勢600人が高台を目指し津波から逃れることができました。

市では、震災前より防災教育を核にした「命の教育」に取り組んできました。いたずらに災害を恐れるのではなく、自然災害に対する理解を

深め、これに対応する知識や能力を向上させたいと考えたからです。学校で既に行われている授業の中で、防災教育が行われるよう、子どもの発達段階に応じたカリキュラムが工夫されました。

この教育では、「津波から命を守る『避難三原則』」が掲げられました。このような実践的な防災教育の積み重ねにより、子どもたちは、自らの

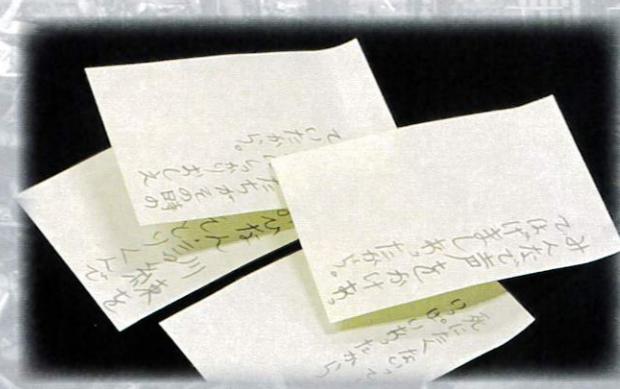
判断で素早く避難し、周りの人たちの避難を促すことができました。



高台に避難した鵜住居小学校、釜石東中学校の児童・生徒（高村幸男氏提供）



震災後も続く小学校での防災教育



震災を振り返って行われたワークショップ

津波から命を守る避難三原則

①想定にとらわれるな

津波による浸水被害を予測したハザードマップは、あくまでも想定にすぎない。

②その状況下において最善を尽くせ

自分の命を守るために、そのとき自分ができる最善のことをする。

③率先避難者たれ

周りの人がどうであろうと、まず自分自身が真っ先に避難する。



釜石市長
のだたけのり
野田武則



「教訓集 未来の命を守るために」
「証言・記録集 伝えたい3.11の記憶」

百年先、千年先まで、命を守るために 「津波から身を守る知恵」を つぎの世代に伝えたい

震災から学んだ教訓を伝える。

2011（平成23）年3月11日、14時46分に発生した巨大地震による大津波は、当市において、死者・行方不明・震災関連死を合わせ、1,060名を超える尊い命を奪い去りました。

東日本大震災という未曾有の大災害を体験した私たちは、二度と同じ悲劇を繰り返すことのないよう、震災から学んだ教訓を伝えていかなければなりません。

このことから、大震災犠牲者のお名前を刻んだ芳名板を設置し、追悼の場として釜石祈りのパークを整備いたしました。また、大きな犠牲者を出した「鵜住居地区防災センターの出来事」と多くの子どもたちの命を救った「防災教育の取り組み」などを紹介する、いのちをつなぐ未来館を整備したところです。

2019（平成31）年3月11日、釜石市防災市民憲章制定市民会議が作成した草案をもとに、釜石市防災市民憲章を制定し、震災から学んだ教訓を生かし、あらゆる災害から未来の命を守るための市民の誓いとしました。

震災の出来事について、世代を超えて語り継いで行くことは、容易なことではありません。過去の津波を体験した先人は、その教訓を石碑や伝承として残しながらも、震災前、その教訓はすでに風化し始めしていました。警報が発令されても、私たちは「どうせ、大きな津波など来ないだろう」と思うようになっていました。「語り継ぐ」だけでは限界があります。世代交代が進めば、被災した直後の思いが薄れていくのは、ある意味、当然のことだからです。

このことから、「大震災かまいしの伝承者」の制度を創設して防災市民憲章に定める理念を次の世代へつないでいくための取り組みを進めております。

災害文化の構築をめざして

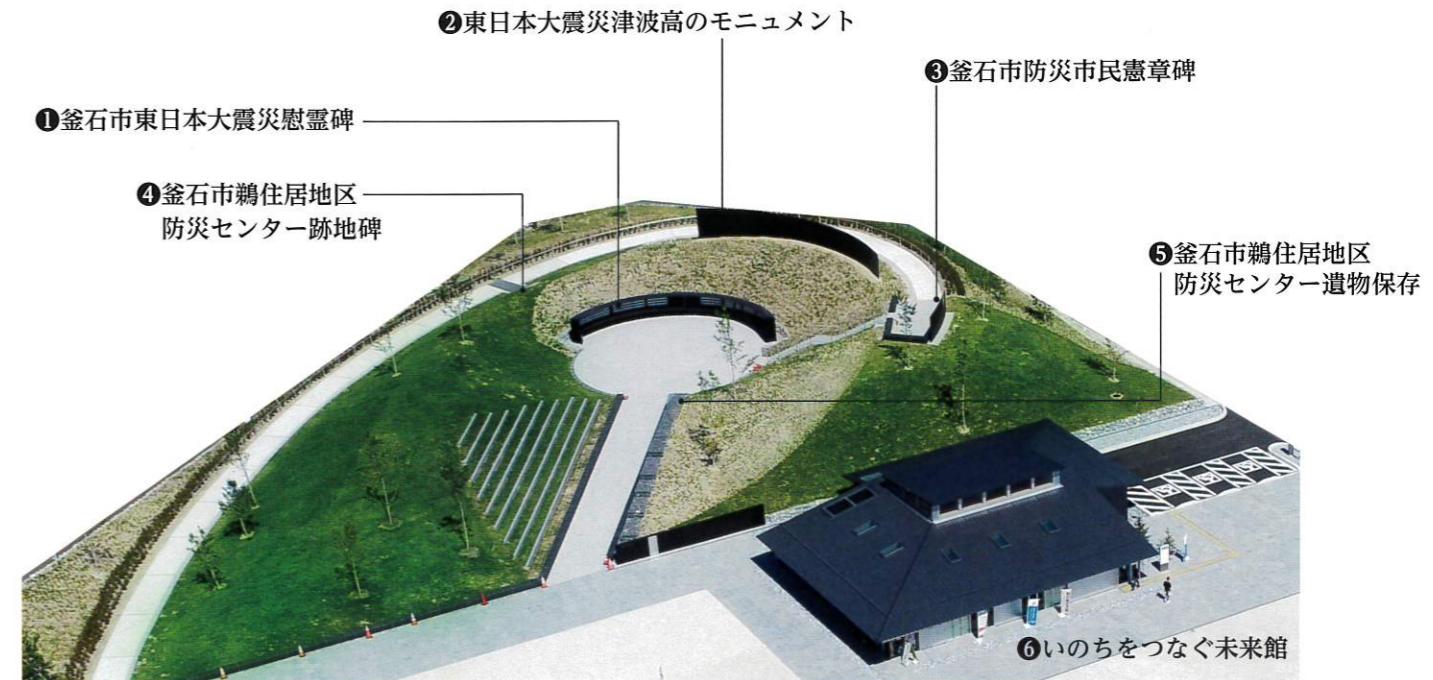
私たちは2016（平成28）年に、住民の方々の証言をもとに『教訓集』『証言・記録集』を作成しましたが、そのことにより、「行動を実践し続ける」ことが重要と考えました。たとえば「揺れたらただちに高台へ避難する」という行動を、何度も何度も実践し続けます。つぎの世代にとってそれが「当たり前の行動」になり、生活の中に深く浸透、定着するのではないでしょうか。ひたすら実践し続け、つぎの世代、またつぎの世代へと伝えていきたいと考えます。

また、「しきけ」を創る考えも必要です。震災後、高台にある避難所まで駆け上る「車駄天競走」の行事が始まられ、親子などが一緒になって参加しています。「防災」を意識せずとも、この「しきけ」を楽しむことで、結果として避難路の整備や避難所生活の訓練につながります。

避難行動や備えの実践、さまざまなしきけなどの工夫をこらすことで、いたずらに海を恐れることなく、自然の脅威と向き合いながら、自然とともに豊かに生きていきたい。本当の意味で災害に強いまち、「災害文化」を創ることをめざして、まちづくりに取り組んでまいります。

これら取り組みを通じまして、多くの皆さま方が、被災地である釜石が学んだ教訓について、考える機会となり、災害から身を守ることが出来る一端となれば幸甚に存じます。

この震災を忘れず、未来に伝えるために



① 釜石市東日本大震災慰靈碑

震災による犠牲者を慰靈、追悼し、鎮魂の祈りを捧げるため、犠牲になられた方々の芳名板と献花台を設置しています。

② 東日本大震災津波高のモニュメント

震災の記憶を後世に伝えるため、鵜住居駅前地区における津波浸水高（モニュメントの頂上部が津波が到達した海拔11mの高さ）を表しています。



③ 釜石市防災市民憲章碑

あらゆる災害から未来の命を守るため、後世に継承する市民総意の誓いとしてつくられた「釜石市防災市民憲章」を刻んでいます。



④ 釜石市鵜住居地区防災センター跡地碑

地震発生後、数多くの地域の方が避難し、津波により多くの尊い命が失われた鵜住居地区防災センターの跡地であることを記しています。



⑤ 釜石市鵜住居地区防災センター遺物

鵜住居地区防災センターの遺物を一部保存しています。



⑥ いのちをつなぐ未来館

震災の出来事や教訓とすべきことを伝えるとともに、災害から未来の命を守るための防災学習を行う場です。



東日本大震災の犠牲者へ祈りを捧げる追悼の場 釜石祈りのパーク

東日本大震災犠牲者追悼碑

この施設は、津波犠牲者ゼロの願いを込めた、釜石市民で犠牲となられた方々を追悼する場として、市内で最も被害が大きかった鵜住居地区のうち、釜石市鵜住居地区防災センター跡地に整備したものです。東日本大震災の発災から、8周年にあたる2019（平成31）年3月11日に犠牲者への献花式を行いました。

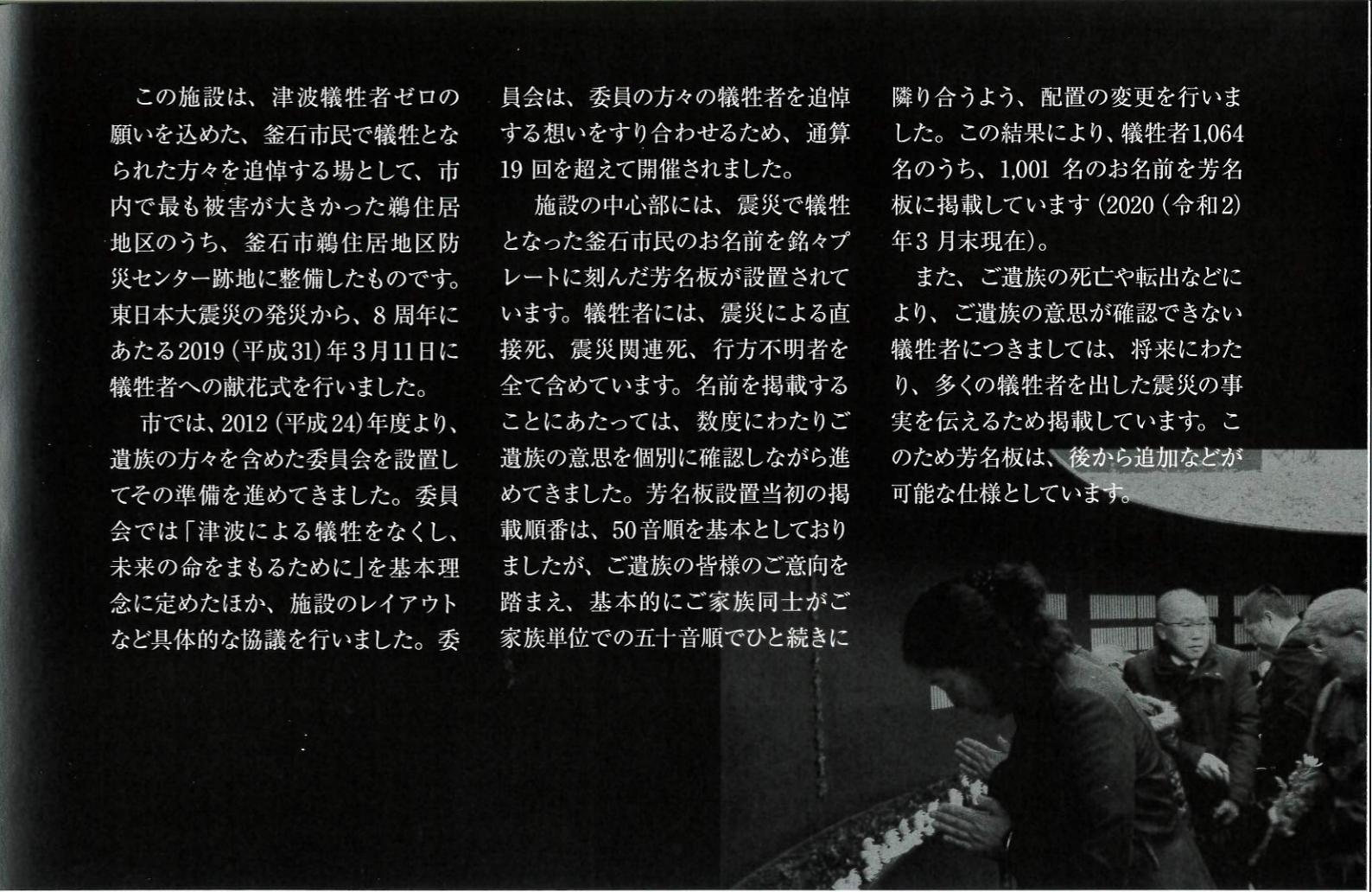
市では、2012（平成24）年度より、遺族の方々を含めた委員会を設置してその準備を進めてきました。委員会では「津波による犠牲をなくし、未来の命をまもるために」を基本理念に定めたほか、施設のレイアウトなど具体的な協議を行いました。委

員会は、委員の方々の犠牲者を追悼する想いをすり合わせるため、通算19回を超えて開催されました。

施設の中心部には、震災で犠牲となった釜石市民のお名前を銘々プレートに刻んだ芳名板が設置されています。犠牲者には、震災による直接死、震災関連死、行方不明者を全て含めています。名前を掲載することにあたっては、数度にわたりご遺族の意思を個別に確認しながら進めてきました。芳名板設置当初の掲載順番は、50音順を基本としておりましたが、ご遺族の皆様のご意向を踏まえ、基本的にご家族同士がご家族単位での五十音順でひと続きに

隣り合うよう、配置の変更を行いました。この結果により、犠牲者1,064名のうち、1,001名のお名前を芳名板に掲載しています（2020（令和2）年3月末現在）。

また、ご遺族の死亡や転出などにより、ご遺族の意思が確認できない犠牲者につきましては、将来にわたり、多くの犠牲者を出した震災の事実を伝えるため掲載しています。このため芳名板は、後から追加などが可能な仕様としています。



これからも、ずっと釜石で生きていく

市民の総意からつくられた釜石市防災市民憲章



釜石市では、東日本大震災で得た教訓を生かし、二度と同じ悲劇を繰り返さないために、あらゆる災害から未来の命を守る市民総意の誓いとして「釜石市防災市民憲章」を制定しました。

制定にあたっては、震災の教訓をまとめたための検証作業や、憲章の基本的な考え方について、市民の意見を集約するための取り組みを実施しました。その後、2018（平成30）年2月8日に市民が主体となった「釜

石市防災市民憲章制定市民会議」が設立され、市内全9会場でのワークショップや市民フォーラム、市内の小・中学校でのワークショップの開催などを通じ、防災市民憲章の考え方や具体的なアイデアが集められました。各年代から共通して出されたキーワードは、「生きる」「逃げる」「備える」「語り継ぐ」などであり、市民会議では、この4つのキーワードをもとにした防災市民憲章の草案を作成し、釜石市長への提言を行いました。

この草案をもとに「釜石市防災市民憲章」が完成し、東日本大震災の発災と同一日である2019（平成31）年3月11日を制定日として、憲章文を刻んだモニュメントを釜石祈りのパークに設置しました。

「釜石市防災市民憲章」には、釜石市民のたくさんの思いが込められており、釜石に生きるつぎの世代を支えるための、未来に届ける大切なメッセージとなっています。



ワークショップ

釜石市防災市民憲章

命を守る

釜石市は、2011年3月11日に発生した東日本大震災の大津波により、千人を超える尊い命を喪った。その悲しみが、癒えることは決してない。

しかし、古来より、先人たちが、度重なる災害や戦災をたくましく乗り越えてきたように、今、私たちは、ふるさと復興への途を歩み続けている。自然は恵みをもたらし、ときには奪う。

海、山川と共に生き、その豊かさを享受してきたこの地で安全に暮らしていくためには、また起こるであろうあらゆる災害に対し、多くの教訓を生かしていかなければならない。

未来の命を守るために、私たちは、後世に継承する市民総意の誓いをここに掲げる。

そな 備える

災害はときと場所を選ばない

避難訓練が命を守る

に 逃げる

何度もひとりでも安全な場所にいちはやく
その勇気はほかの命も救う

もど 戻らない

一度逃げたら戻らない戻らせない

その決断が命をつなぐ

かた 語り継ぐ

子どもたちに自然と共に在るすべての人に
災害から学んだ生き抜く知恵を語り継ぐ

私たちは生きる。

かけがえのないふるさと釜石に、共に生きる。

制定年月日 平成31年3月11日

いのちをつなぐ未来館

震災の記憶を忘れず、未来へつなげる防災学習の場

伝える
学ぶ
集う



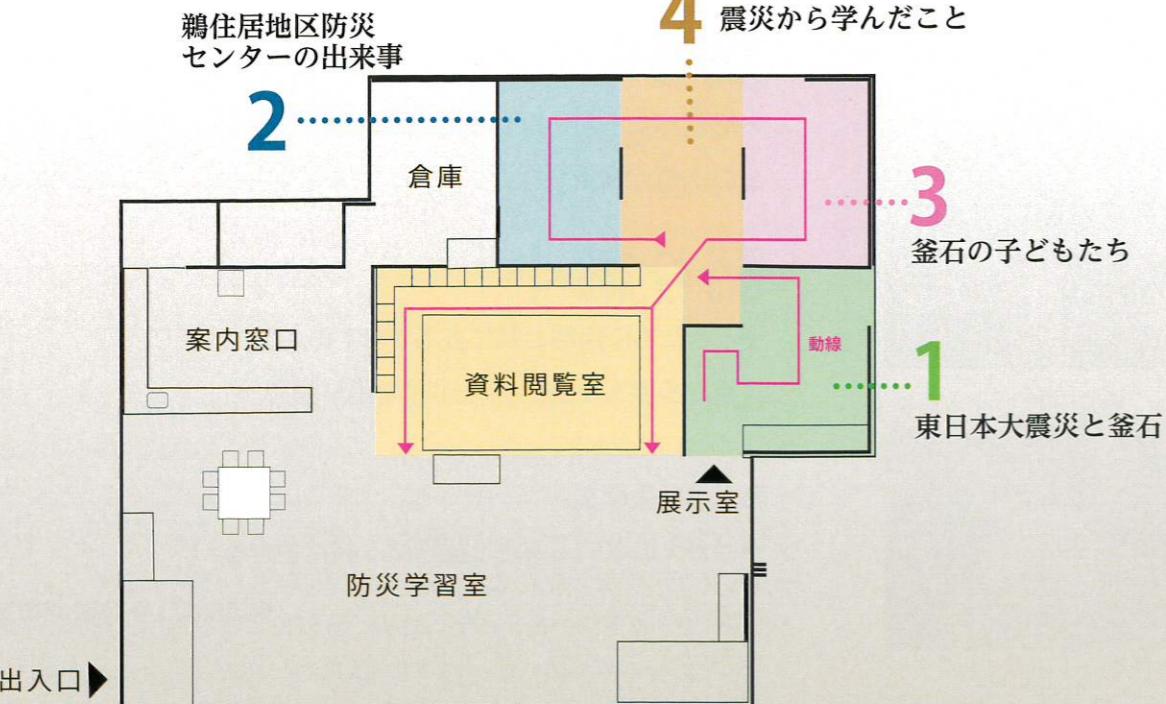
いのちをつなぐ未来館は、2019（平成31）年3月23日にオープンした釜石市の防災学習施設です。釜石市震災メモリアルパークの基本理念に基づく5つの機能のうち、「伝える」「学ぶ」「集う」の役割を持ち、震災の記憶と教訓の継承、釜石市の子どもたちが震災以前から取り組んできた防災教育の普及を行っています。

施設は、震災の出来事や防災学習の取り組みを常設展示で紹介する展示室、震災・防災に関する書籍や資料を収蔵し、閲覧できる資料閲覧室、企画展示や防災学習に関するワークショップの開催などに活用できる防災学習室の3つのゾーンで構成しています。

ガイドスタッフによる震災当時の

状況や実体験に基づく避難行動などの解説のほか、子どもを中心とした防災学習プログラムの提供、市内小中学生による防災学習の発表会や震災伝承活動に関する講演会の開催など、市内外へ防災教育を発信し、防災意識の向上を図る取り組みを行っています。

4 震災から学んだこと



展示室

1 東日本大震災と釜石

展示の導入として、東日本大震災で釜石が受けた被害状況の概要を伝えるとともに、発災直後からの救助・救援活動などの記録を時系列で紹介しています。また、震災後に集められた津波で被災した品々の実物を展示しています。



3 釜石の子どもたち

地震発生後、釜石の子どもたちは素早く適切な避難を行い、その命を守りました。なぜそのような行動をとることができたのか。避難時の状況とともに、子どもたちが震災前から行っていた防災教育の取り組みを紹介しています。



2 鵜住居地区防災センターの出来事

地震発生後に多くの住民が避難し、犠牲となった防災センターの悲劇はなぜ起きたのか。その被害の悲惨さや検証の経過とともに、二度と同じ悲劇を繰り返さないよう、この出来事を教訓とする津波防災の取り組みを紹介しています。



4 震災から学んだこと

東日本大震災は、多くの被害をもたらし、貴重な教訓を残しました。未来の命を守るために、三陸沿岸地方に伝わる「てんでんこ」の教えを見つめ直す記録映像や、未来に伝えたい10のメッセージなど、震災から学んだ教訓を紹介しています。



資料閲覧室



ガイドをご希望の方は、事前にご予約をお願いします。
防災学習プログラムの実施について、詳細はお問い合わせください。
ホームページやSNSでも情報発信を行っています。

防災学習室



●お問い合わせ いのちをつなぐ未来館
〒026-0301 岩手県釜石市鵜住居町四丁目901番2
TEL 0193-27-5666 / FAX 0193-27-5667
URL <https://unosumai-tomosu.jp/>
Facebook [unosumaitomosu](https://www.facebook.com/unosumaitomosu)



観光ガイドの概要

…オーダーメイド型「学ぶ旅」のご提案…

釜石観光ガイド会

(一社)釜石観光物産協会

釜石観光ガイド会

設立	平成14年3月
会員	27人
ガイド内容	①鉄の歴史ガイド ②橋野鉄鉱山現地ガイド ③防災学習・震災復興ガイド ④ジオパークガイド ⑤釜石ラグビーのガイド ⑥まちなかガイド、その他
料金	3時間まで3,000円
利用人数	ガイド1名でバス1台に対応可能
セールスポイント	お客様のご要望に応じたコースとなります



年度区分	ガイド人数
平成28年度	8,649人
平成29年度	5,309人
平成30年度	6,174人
令和元年度	9,397人
令和2年度	3,031人





橋野鉄鉱山世界遺産＆ジオガイド

-約1時間-



- 「明治日本の産業革命遺産」って何？
- 日本人がチョンマゲを結い、刀をぶら下げていた170年前、何故この山奥で産業の近代化が始まったのか？
- 鉄づくりって何？ どうして鉄が必要だった？ 誰が関わった？ その後の変遷は？
- 鉄づくりとジオパークについて
- 世界文化遺産の意義



橋野鉄鉱山インフォメーションセンター



インフォメーションセンター（内部）

→ インフォメーションセンター（約15分）

→ 現地（高炉跡45分）



高炉跡のガイド

防災学習・震災復興ガイド

—約1時間から2時間程度—

釜石市防災市民憲章(平成31年3月11日)

[前文]

……自然は恵みをもたらし、ときに奪う。……あらゆる災害に対し、多くの教訓を生かしていかなければならない。……私たちは、後世に継承する市民総意の誓いをここに掲げる。



被災直後の市街地

備える

……避難訓練が命を守る

逃げる

何度もひとりでも安全な場所にいちはやく

……

戻らない

一度逃げたら戻らない戻らせない……

語り継ぐ

……災害から学んだ生き抜く知恵を語り継ぐ



被災後の鵜住居町

防災学習・震災復興ガイド(①市街地コース)

—約1時間—

- 釜石駅(合流)
↓
- 釜石小学校(車窓)
釜石小学校の防災教育
↓
- 釜石市役所～避難道路
被災の様子、釜石小学校生の行動
↓
- 避難道路～釜石市魚市場
復興の状況
↓
- 釜石駅前広場(復興の鐘)
釜石小学校の校歌、防災学習の総括



避難道路から津波を見る人たち



避難道路でのガイド

復興の鐘(釜石駅前)



防災学習・震災復興ガイド(②鶴住居コース)

—約1時間半—

■ 釜石駅(合流～釜石の防災教育(車中))



■ 釜石祈りのパーク
被災の状況



■ いのちをつなぐ未来館
鶴住居小・東中の防災教育、子どもたちの行動



■ 鶴住居小・釜石東中(遠景)
復興の状況等



■ 釜石駅前広場(復興の鐘)
解散

※ 鶴住居駅合流で、1時間コース
とすることも可能



被災後の東中と(左)、鶴住居小



東中と鶴住居小の避難訓練(震災前)



いのちをつなぐ未来館



釜石祈りのパーク

防災学習・震災復興ガイド(③鵜住居コース)

- 釜石駅(合流～釜石の防災教育(車中))
↓
- 釜石祈りのパーク
被災の状況
↓
- いのちをつなぐ未来館
鵜住居小・東中の防災教育、子どもたちの行動
↓
- 釜石鵜住居復興スタジアム
↓
- 東中の避難路(バスにて)
時間によっては実際に歩くことも可能
↓
- 根浜集落の高台移転(遠景)
↓
- 釜石駅前広場(復興の鐘)
解散

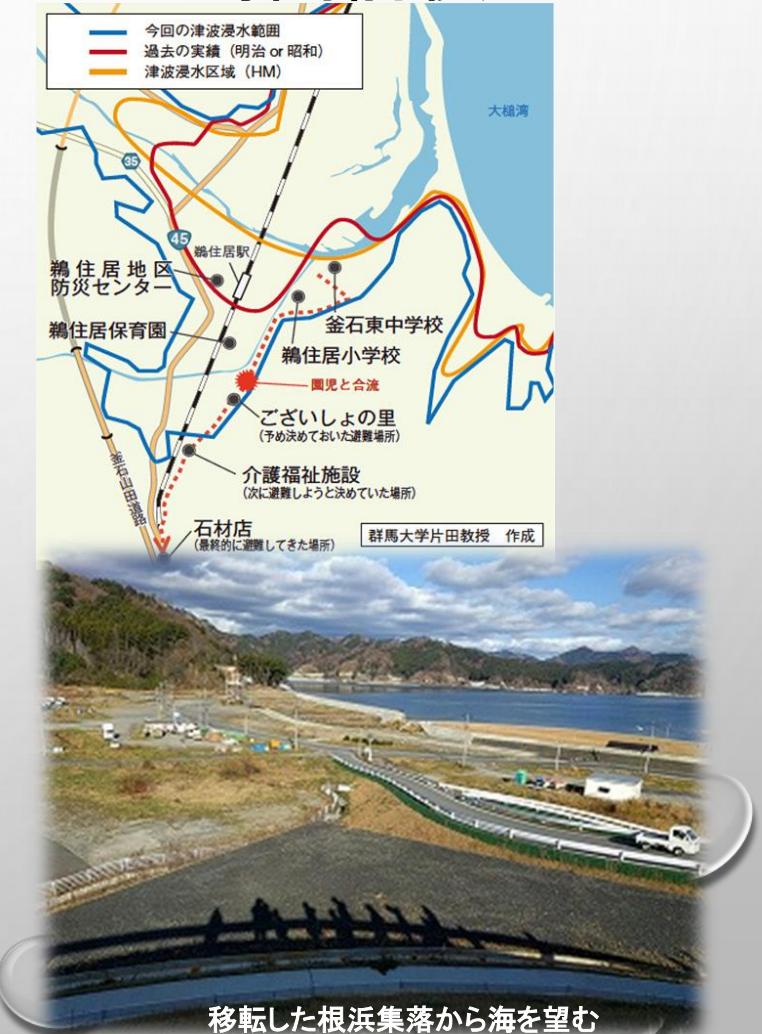


震災当日の様子

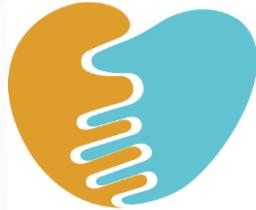


釜石鵜住居復興スタジアム

—2時間前後—



移転した根浜集落から海を望む



鉄の歴史＆ジオ・どっぷり半日コース

■ 釜石駅(合流)～鵜住居(車内ガイド)



■ 橋野鉄鉱山

インフォメーションセンター、高炉跡



■ 鉄の歴史館



■ 登録有形文化財「旧釜石鉱山事務所」

ギャラリー等ガイド、選鉱場跡、その他

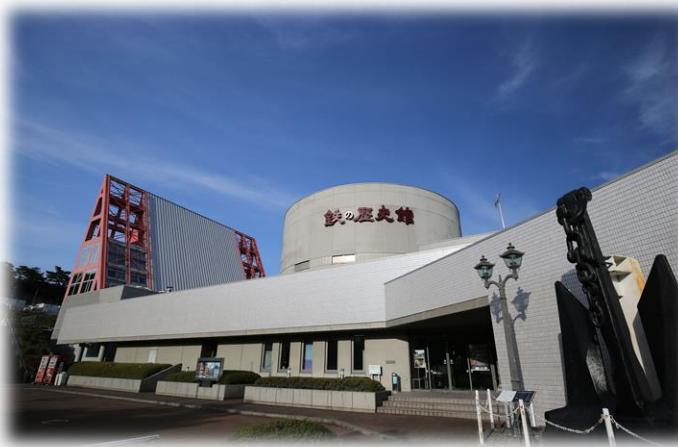


■ 釜石駅前広場

解散

※ いずれかのコースを割愛し、
時間短縮することも可能

※ 釜石大観音を入れることも可能



鉄の歴史館



鉄の歴史館のシアター



釜石鉱山



旧釜石鉱山事務所

まちなかガイド

－1時間～2時間－

■ 釜石駅前広場

復興の鐘、鉄のモニュメント、井上ひさしの足跡



■ 大渡町

長谷川時雨・林芙美子の足跡



■ 薬師公園

戦争の歴史、鉄づくりの歴史、震災復興ガイド
花の本聰秋、巖谷小波、工藤俳痴の足跡



■ 大町～大渡～鈴子

朝倉響子、田村尚男、舟越保武の足跡



■ 釜石製鉄所

製鉄の歴史



■ 郷土資料館

※ 2時間コースには、郷土資料館の
見学(要入館料300円)を想定



田中長兵衛・横山久太郎像



平和の女神像



郷土資料館



舟越保武「渚」



田村尚男「遙る」



朝倉響子「希」



大島高任



林芙美子



井上ひさし

団体旅行向け飲食・特産品施設のご案内

魚河岸テラス



ミッフィーカフェ



鵜の里交流館



シープラザ釜石



サン・フィッシュ釜石



施設名	可能数	内容
ホテルサンルート釜石	160人	弁当形式 2千円～
料亭 幸楼	100人	弁当形式 2千円～
ホテルシーガリアマリン	150人	和定食 3千円～
マルワマート	応談	仕出し弁当 応談



ホテルサンルート釜石



ホテルシーガリアマリン

施設名	場所
シープラザ釜石	JR釜石駅前
サン・フィッシュ釜石	JR釜石駅前
鵜の里交流館	三陸鉄道鵜住居駅前
ミッフィーカフェ	釜石市民ホール前
魚河岸テラス	釜石市魚市場横
道の駅釜石仙人峠	釜石自動車道釜石仙人峠IC



ガイド中止基準

- ・気象警報、高潮警報、波浪警報、ガイド中止、
洪水警報、大津波警報又は津波注意報が発令
- ・震度4以上の地震が発生
- ・長雨等による災害が発生の恐れがある
- ・大規模な火災・暴発等による災害の恐れがある

暴風、暴風雪、大雨、大雪の各警報、高潮警報、波浪警報、洪水警報又は津波注意報が発表され、相当規模の災害発生の恐れがある

即時中止

災害マニュアル(要旨)

1. 安全の確保を第一に考える
2. 二次災害の防止に努める
3. 災害情報の早期収集を図る
4. 移動の際には細心の注意を払う
5. 状況を連絡し合う

ガイドの心得(要約)

1. 最初に、健康状態の悪い乗客がいないかどうか確認する
2. バスに乗車するときは、予め添乗員(運転手)から乗客の健康状態等を聞く
3. ガイド中も、お客様の行動や顔色などを注意する
4. 移動中やバス乗降時等、段差、高低差、ぬかるみ、その他支障物に注意する
5. ガイド員自身の健康にも注意する

受付
番号

釜石観光ガイド案内申込書兼決定通知書

※太枠内に必要事項をご記入の上8日前までに、FAX (0193-31-1166) でお申し込みください。

申込年月日	令和 年 月 日						
申込者	(フリガナ) _____			電話番号			
	氏名			FAX			
	住 所						
	E-mail						
(団体名)							
※当日連絡が取れる代表者の氏名及び連絡先をご記入ください。							
(フリガナ) _____							
代表者氏名	連絡先						
ガイド希望日時	令和 年 月 日 曜日	※旅程表をお持ちの方は、差し支えなければ申込書と一緒に送付願います。					
人 数	内 訳：男性 名	名／女性 年齢層：	名	名／女性 年齢層：	名	名／女性 年齢層：	名
案内希望場所	※分かることでご記入ください。						
利用交通機関	貸切バス・JR・三陸鉄道・自家用車・レンタカー・その他() ガイド車でバスを手配するものではありません。						
希望事項 ・ その他の							

注意事項／ガイド自らの自家用車では客内しませんが、バスやタクシー等に乗車することは可燃です。基本的に、釜石駅前からの出発と到着になります。
案内時にガイド以外の料金(交通費など)が発生するときは、申込者の負担となります。3日前のキャンセルからキャンセル料が発生する場合があります。

上記のとおり予約を承りました。

●待ち合わせ場所 _____ ●解散場所 _____
●料金 _____ 円 ●担当ガイド 氏名 _____ 連絡先 _____

問合わせ先

釜石観光ガイド会

〒 026-0031

岩手県釜石市鈴子町22番4号(釜石観光総合案内所内)

TEL 0193(22)5835

FAX 0193(31)1166

E-mail kamaishi-kankou@bz04.plala.or.jp

URL <http://kamaishi-kankou.sakura.ne.jp> 「かまナビ」で検索

釜石観光ガイド会は、年間500件前後、多いときは1万人以上の観光客にガイドを行い、釜石における鉄の歴史や防災学習をはじめとした様々なコースにも対応しています。

観光だけでなく、公民館や老人クラブなどの生涯学習活動での講座でご利用いただいても結構です。観光ガイドと「地域再発見の旅」に出かけてみませんか？

実施期間 通年
ただし、12月29日から1月3日までは除きます。

利用人数 ガイド1名につき、最大40名（バス1台）に対応することができます。最少利用人数は1名です。

利用料金 1名3時間につき3,000円（ガイドの交通費を含む）となります。
1時間を超えるごとに1,000円を加算します。

対象施設 特に問いません。
ご要望に応じてガイドします。

利用時間 9時から17時までとしますが、状況に応じそれ以外でも対応するときがあります。
ただし、適宜休憩の時間が必要です。

中止基準 気象庁より「警報」が発令されているときは、ガイドを行なうことはできません。
「注意報」の場合は、そのときの状況により判断します。

釜石観光ガイド案内申込書兼決定通知書

※太枠内に必要事項をご記入の上8日前までに、FAX（0193-31-1166）でお申し込みください。

申込年月日	令和 年 月 日				
申込者	(フリガナ)		電話番号		
	氏名		FAX		
	住所				
	E-mail				
	(団体名) ※当日連絡が取れる代表者の氏名及び連絡先をご記入ください。 (フリガナ)				
代表者氏名	連絡先				
ガイド希望日時	令和 年 月 日 曜日	時 分	~	時 分	※旅程表をお持ちの方は、差し支えなければ申込書と一緒に送付願います。
人 数	名	内訳：男性	名／女性	名	※分かる範囲でご記入ください。
	年齢層：	歳代 ~	歳代		
案内希望場所					
利用交通機関	貸切バス・JR・三陸鉄道・自家用車・レンタカー・その他（ ） ガイド会でバスを手配するものではありません。				
希望事項 ・ その他の					

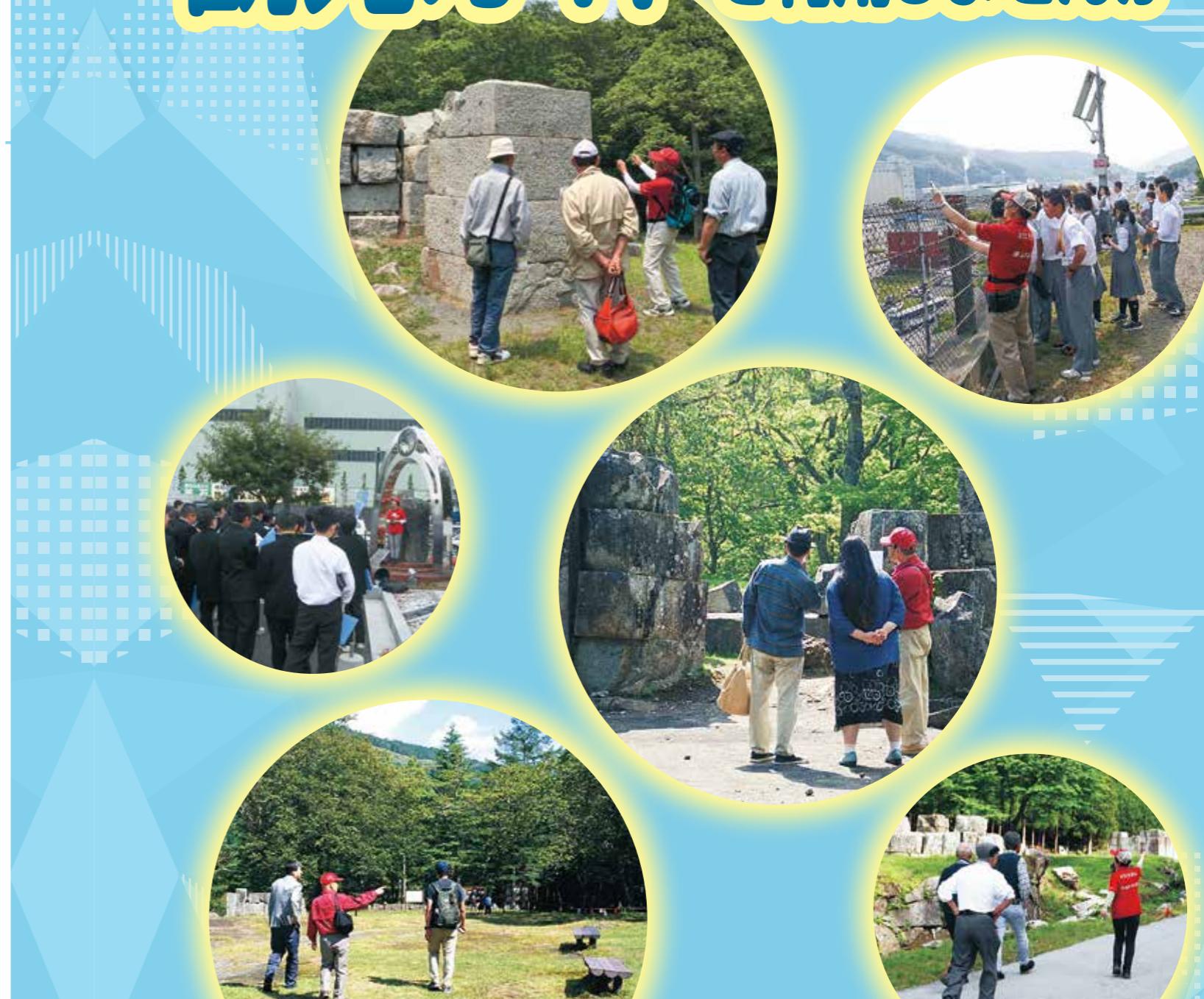
注意事項／ガイド自らの自家用車では案内しませんが、バスやタクシー等に乗車することは可能です。基本的に、釜石駅前からの出発と到着になります。
案内時にガイド以外の料金（交通費など）が発生するときは、申込者の負担となります。3日前のキャンセルからキャンセル料が発生する場合があります。

上記のとおり予約を承りました。

●待ち合わせ場所 _____ ●解散場所 _____
●料金 _____ 円 ●担当ガイド 氏名 _____ 連絡先 _____

釜石市

観光ガイドを利用しませんか



釜石観光ガイド会

〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町22番4号（釜石観光総合案内所内）
TEL.0193(22)5835 FAX.0193(31)1166 E-mail:kamaishi-kankou@bz04.plala.or.jp

（一社）釜石観光物産協会／岩手県釜石市鈴子町22番1号 TEL.0193(27)8172 FAX.0193(27)8173

1 ユネスコ世界遺産でジオサイトの「橋野鉄鉱山」を知ろう 橋野鉄鉱山の世界遺産&ジオガイド

④ 1時間

釜石は、高炉を用いた鉄づくりにチャレンジし初めて成功したまちで、日本最古の高炉が現存しユネスコ世界遺産に認定されています。170年近く前、まだ刀をぶら下げ、チョンマゲを結っていた時代に何故釜石で鉄づくりが始まったのか、その時代背景とともに分かり易くガイドします。

コース

橋野鉄鉱山インフォメーションセンター▶▶▶一番高炉▶▶▶二番高炉
▶▶▶大工長屋跡・鍛冶長屋跡▶▶▶山神社跡・市之助墓遠景
▶▶▶三番高炉



2 釜石の製鉄・戦争・文学の歴史と震災からの復興を知る まちなかガイド

④ 1時間～2時間

釜石駅周辺と市の中心部にある薬師公園には、製鉄業に携わった人や鉄づくりの縁で釜石を訪れた小説家たちの像や碑が遺されています。また、釜石は第二次世界大戦で米英からの艦砲射撃を受けており、東日本大震災も含めた釜石の歴史と平和の尊さをお伝えすることができます。

コース

釜石駅▶▶▶復興の鐘▶▶▶鉄のモニュメント▶▶▶
(郷土資料館▶田村尚男「遡る」▶長谷川時雨碑▶林芙美子碑)▶▶▶
薬師公園の文学碑・忠魂碑・平和の女神像・高橋亦助翁彰徳碑
▶▶▶釜石駅



3 釜石鉱山の成り立ちを「ジオ」の観点から学んでみよう 釜石鉱山&ジオガイド

④ 1時間

わが国最大の鉄鉱山かつ有数の銅鉱山でもある現役の釜石鉱山と、国の登録有形文化財に指定されている旧釜石鉱山事務所の展示物などを見学することで、鉄づくりの歴史を知ることができます。さらに、周辺には日本で三番目に営業開始した釜石鉄道の歴史も遺されており、マニアには必見です。

コース

旧釜石鉱山事務所(昭和の事務所・鉱山のギャラリー・鉱山の展示室・鉱物室等)▶▶▶大島高任父子顕彰碑▶▶▶鉱滓堆積場遠景
▶▶▶選鉱場跡



4 日本にも数少ない鉄の博物館と三陸最大の観音様を楽しむ 鉄の歴史館&釜石大観音ガイド

④ 1時間～2時間

作家井上ひさし「ひょっこりひょうたん島」のルーツは釜石の三貫島にあるとも言われ、その歌碑が鉄づくりのため釜石大橋間を走った C20 型蒸気機関車とともに鉄の歴史館の近くに保存されています。また、釜石大観音は太平洋をダイナミックに展望することができるスポットで、普段と違った角度からガイドさせていただきます。

コース

釜石駅▶▶▶井上ひさし文学碑▶▶▶C20 型蒸気機関車▶▶▶
鉄の歴史館(▶日本中國永遠平和の像▶中村華子碑)▶▶▶
釜石大観音▶▶▶釜石駅



5 震災の出来事と復興の道のりを「明」と「暗」からガイドします 釜石の防災学習ガイド【鵜住居】

④ 1時間～2時間

鵜住居町は、東日本大震災において市内で最も被害の大きかった地区です。なぜ、多くの方が亡くなった一方で学校管理下にあった子どもたちが全員生き延びたのか。祈りのパークやいのちをつなぐ未来館、高台に移転した集落などの見学を通じて津波から身を守る術を伝えていきます。

コース

鵜住居駅▶▶▶釜石祈りのパーク▶▶▶いのちをつなぐ未来館
▶▶▶鵜の郷交流館(▶鵜住居小学校の高台▶鵜住居復興スタジアム
▶根浜の高台移転集落▶命の道)▶▶▶鵜住居駅



6 津波の破壊力と復興までの過程を「避難道路」からお伝えします 震災復興ガイド【浜町】

④ 1時間

津波は市の中心部にある商店街や事業所も破壊しましたが、既に下校していた小学校の児童は全員無事ただけでなく、家族の避難を促して多くの命を救ったのも子どもたちでした。「奇跡」を生んだとされるその防災学習について、「かまいしの語り部」に登録されたガイドが説明します。

コース

釜石駅▶▶▶避難道路(只越町～浜町)▶▶▶魚河岸テラス
▶▶▶復興の鐘▶▶▶釜石駅



釜石観光ガイド会は、年間500件前後、多いときは1万人以上の観光客にガイドを行い、釜石における鉄の歴史や防災学習をはじめとした様々なコースにも対応しています。

観光だけでなく、公民館や老人クラブなどの生涯学習活動での講座でご利用いただいても結構です。観光ガイドと「地域再発見の旅」に出かけてみませんか？

実施期間 通年
ただし、12月29日から1月3日までは除きます。

利用人数 ガイド1名につき、最大40名（バス1台）に対応することができます。最少利用人数は1名です。

利用料金 1名3時間につき3,000円（ガイドの交通費を含む）となります。
1時間を超えるごとに1,000円を加算します。

対象施設 特に問いません。
ご要望に応じてガイドします。

利用時間 9時から17時までとしますが、状況に応じそれ以外でも対応するときがあります。
ただし、適宜休憩の時間が必要です。

中止基準 気象庁より「警報」が発令されているときは、ガイドを行なうことはできません。
「注意報」の場合は、そのときの状況により判断します。

釜石観光ガイド案内申込書兼決定通知書

※太枠内に必要事項をご記入の上8日前までに、FAX（0193-31-1166）でお申し込みください。

申込年月日	令和 年 月 日				
申込者	(フリガナ)		電話番号		
	氏名		FAX		
	住所				
	E-mail				
	(団体名) ※当日連絡が取れる代表者の氏名及び連絡先をご記入ください。 (フリガナ)				
代表者氏名	連絡先				
ガイド希望日時	令和 年 月 日 曜日	時 分	~	時 分	※旅程表をお持ちの方は、差し支えなければ申込書と一緒に送付願います。
人 数	名	内訳：男性	名／女性	名	※分かる範囲でご記入ください。
	年齢層：	歳代 ~	歳代		
案内希望場所					
利用交通機関	貸切バス・JR・三陸鉄道・自家用車・レンタカー・その他（ ） ガイド会でバスを手配するものではありません。				
希望事項 ・ その他の					

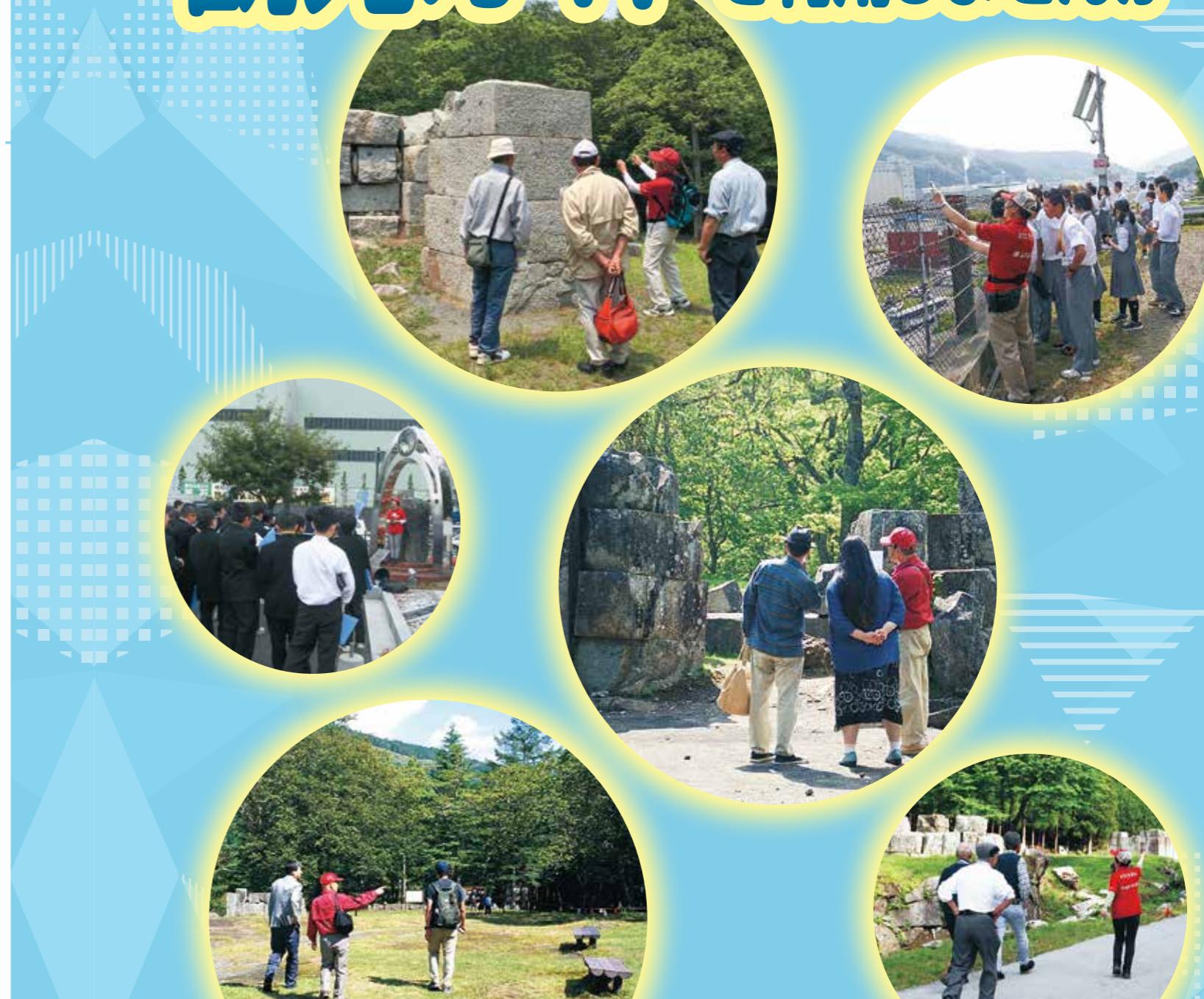
注意事項／ガイド自らの自家用車では案内しませんが、バスやタクシー等に乗車することは可能です。基本的に、釜石駅前からの出発と到着になります。
案内時にガイド以外の料金（交通費など）が発生するときは、申込者の負担となります。3日前のキャンセルからキャンセル料が発生する場合があります。

上記のとおり予約を承りました。

●待ち合わせ場所 _____ ●解散場所 _____
●料金 _____ 円 ●担当ガイド 氏名 _____ 連絡先 _____

釜石市

観光ガイドを利用しませんか



釜石観光ガイド会

〒026-0031 岩手県釜石市鈴子町22番4号（釜石観光総合案内所内）
TEL.0193(22)5835 FAX.0193(31)1166 E-mail:kamaishi-kankou@bz04.plala.or.jp

（一社）釜石観光物産協会／岩手県釜石市鈴子町22番1号 TEL.0193(27)8172 FAX.0193(27)8173

1 ユネスコ世界遺産でジオサイトの「橋野鉄鉱山」を知ろう 橋野鉄鉱山の世界遺産&ジオガイド

④ 1時間

釜石は、高炉を用いた鉄づくりにチャレンジし初めて成功したまちで、日本最古の高炉が現存しユネスコ世界遺産に認定されています。170年近く前、まだ刀をぶら下げ、チョンマゲを結っていた時代に何故釜石で鉄づくりが始まったのか、その時代背景とともに分かり易くガイドします。

コース

橋野鉄鉱山インフォメーションセンター▶▶▶一番高炉▶▶▶二番高炉
▶▶▶大工長屋跡・鍛冶長屋跡▶▶▶山神社跡・市之助墓遠景
▶▶▶三番高炉



2 釜石の製鉄・戦争・文学の歴史と震災からの復興を知る まちなかガイド

④ 1時間～2時間

釜石駅周辺と市の中心部にある薬師公園には、製鉄業に携わった人や鉄づくりの縁で釜石を訪れた小説家たちの像や碑が遺されています。また、釜石は第二次世界大戦で米英からの艦砲射撃を受けており、東日本大震災も含めた釜石の歴史と平和の尊さをお伝えすることができます。

コース

釜石駅▶▶▶復興の鐘▶▶▶鉄のモニュメント▶▶▶
(郷土資料館▶田村尚男「遡る」▶長谷川時雨碑▶林芙美子碑)▶▶▶
薬師公園の文学碑・忠魂碑・平和の女神像・高橋亦助翁彰徳碑
▶▶▶釜石駅



3 釜石鉱山の成り立ちを「ジオ」の観点から学んでみよう 釜石鉱山&ジオガイド

④ 1時間

わが国最大の鉄鉱山かつ有数の銅鉱山でもある現役の釜石鉱山と、国の登録有形文化財に指定されている旧釜石鉱山事務所の展示物などを見学することで、鉄づくりの歴史を知ることができます。さらに、周辺には日本で三番目に営業開始した釜石鉄道の歴史も遺されており、マニアには必見です。

コース

旧釜石鉱山事務所(昭和の事務所・鉱山のギャラリー・鉱山の展示室・鉱物室等)▶▶▶大島高任父子顕彰碑▶▶▶鉱滓堆積場遠景
▶▶▶選鉱場跡



4 日本にも数少ない鉄の博物館と三陸最大の観音様を楽しむ 鉄の歴史館&釜石大観音ガイド

④ 1時間～2時間

作家井上ひさし「ひょっこりひょうたん島」のルーツは釜石の三貫島にあるとも言われ、その歌碑が鉄づくりのため釜石大橋間を走った C20 型蒸気機関車とともに鉄の歴史館の近くに保存されています。また、釜石大観音は太平洋をダイナミックに展望することができるスポットで、普段と違った角度からガイドさせていただきます。

コース

釜石駅▶▶▶井上ひさし文学碑▶▶▶C20 型蒸気機関車▶▶▶
鉄の歴史館(▶日本中國永遠平和の像▶中村華子碑)▶▶▶
釜石大観音▶▶▶釜石駅



5 震災の出来事と復興の道のりを「明」と「暗」からガイドします 釜石の防災学習ガイド【鵜住居】

④ 1時間～2時間

鵜住居町は、東日本大震災において市内で最も被害の大きかった地区です。なぜ、多くの方が亡くなった一方で学校管理下にあった子どもたちが全員生き延びたのか。祈りのパークやいのちをつなぐ未来館、高台に移転した集落などの見学を通じて津波から身を守る術を伝えていきます。

コース

鵜住居駅▶▶▶釜石祈りのパーク▶▶▶いのちをつなぐ未来館
▶▶▶鵜の郷交流館(▶鵜住居小学校の高台▶鵜住居復興スタジアム
▶根浜の高台移転集落▶命の道)▶▶▶鵜住居駅



6 津波の破壊力と復興までの過程を「避難道路」からお伝えします 震災復興ガイド【浜町】

④ 1時間

津波は市の中心部にある商店街や事業所も破壊しましたが、既に下校していた小学校の児童は全員無事ただけでなく、家族の避難を促して多くの命を救ったのも子どもたちでした。「奇跡」を生んだとされるその防災学習について、「かまいしの語り部」に登録されたガイドが説明します。

コース

釜石駅▶▶▶避難道路(只越町～浜町)▶▶▶魚河岸テラス
▶▶▶復興の鐘▶▶▶釜石駅

